

さいたま市立大砂土中学校 学校だより



さいたま市立大砂土中学校

さいたま市見沼区東大宮1丁目100-1

TEL・048-684-8004

第4号

令和8年7月13日発行

「学び」の連鎖

校長 越智 宏明

1学期も最終月に入りました。

3年生は、6月29日より2泊3日で京都・奈良への修学旅行が行われ、古(いにしえ)の文化を、文字通り五感を通じて吸収してきました。2年生は、修学旅行と同じ期間に行われた「未来くる体験学習」で働くことの楽しさと意義について、貴重な体験をしてきました。1年生は、1学期の生活をとおして、ようやく中学校生活に慣れてきたところです。それぞれの生徒にとって得るところの多い1学期だったのではないのでしょうか？

さて、今年度から大砂土中学校では、仲間のため地域のために活躍した生徒を「大砂土スーパースター賞」として表彰しています。1学期末までに、10名の生徒を表彰する予定です(うち5名は終業式で表彰します)。最初は大砂土スーパースター賞を受賞した5名の生徒たちは、地域の方が自宅の鍵を紛失して困っているのを見つけ、鍵が見つかるまで一緒に探してあげたことによるものです。後日、その方から学校に感謝のお電話をいただきました。生徒たちには表彰状を授与し、記念のレリーフを職員室前に掲げています。

この5名の生徒たちを表彰した後、大勢の生徒が校長室に来て、私に同じ質問をしてきました。「どうすれば僕も(私も)スーパースター賞をもらえますか?」、私は、「生徒や地域の人たちのためになることをしたら、誰にでも賞をあげるよ」と答えています。「生徒や地域の人のため、自分に何ができるか」を生徒自身が主体的に考えること自体が本当に大切なことだと考えるからです。大砂土中学校の中に、「スーパースター」が増えれば増えるほど、学校内に、「善いことを善い」、「正しいことを正しい」と認め合える環境が醸成されていくと、私は確信しています。もちろん中には、「こういうことをしたら、『スーパースター賞』をもらえますか?」と尋ねてくる生徒もいます。そうした生徒にも、私は「スーパースター賞」を授与するつもりです。大切なのは、「『こういうことをしたら人から認められる』ということを実行してみる」ことなので、だから最初は「賞ねらい」でも構いません。人の善い行いを見て自分も真似をし、そして認められる喜びを知る…、このことが連鎖的に広がっていったとき、大砂土中学校は誰にとっても居心地の良い、本当の意味で「地域に輝く学校」になれるのではないのでしょうか？

学校が「学び」の場であることは、今更言うまでもないことですが、この「学ぶ」という言葉の語源を調べると、古語の「真似(まね)ぶ」にあるという説が有力です。つまり、「学ぶ」という行為は単なる知識の習得だけではなく、先人や周囲の人々の行動を「真似」することで、自身の能力を高めるというのが本来の意味だということです。そう考えると、大砂土中学校では今後、「学び」の連鎖が生まれていくのではないかという期待を、私はしています。誰かの善い行いを他の誰かが真似し、それがまた別の誰かに真似されるというリレーションが生まれ、広がっていくことで「善い行い」の価値を生徒一人ひとりが確実に学び取っていくのだと思います。だから私は、そのために、100人でも200人でも表彰していくつもりです。

保護者や地域の方たちも学校にお立ち寄りの際は、職員室前のレリーフをご覧ください、是非生徒たちの「学び」がどのように連鎖していったのかご覧くださいと思います。

夏休み明け、一回り成長した生徒の皆さんに会えるのを楽しみにしています。



1学期の終業式までに、10名の生徒が「大砂土スーパースター賞」に輝きました。「学び」の連鎖が更に広がることを期待しています。